

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム独自の理念であり、住み慣れた地域でその人らしく暮らすことを理念に挙げ支援している。基本理念(五)には家族や地域コミュニティとの絆を強めるための支援を行うとし、地域団体や子ども会との交流会を大切にしている。また、ホームが家族との交流の場になるようしている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を張り出し、管理者、職員は理念の唱和を行うことにより、理念の共有を図ると共に、利用者対応の指標としている。独自の表を作成しながらケアプランやケース検討時、最終的に理念に沿うか確認している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念は玄関、居間に掲示され、利用者はもちろん家族や来客、地域住民の方々に理解していただけるようにしている。また家族会や地域代表の参加がある運営推進会議の場にも理念について伝えている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職員は通勤時、散歩時笑顔で挨拶することを心がけている。バス停あたりでは行事の話やお茶のお誘いを行っている。利用者との庭の手入れ時は、お隣さんに積極的に声がけを行い畑仕事の進み具合を話し合っている。地域ボランティアの方々との交流を大切に訪問しやすい雰囲気を大切にして接するように努めている。地元駐在さんの毎月の訪問時は情報提供や安否確認がある。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は地域の一員として地域活動である廃品回収や円万寺祭りなどに毎年、参加している。老人会でもある花と緑の会との交流もさつき木の手入れを通じ継続されている。小正月には円万寺地域のかせ踊り団体(利用者家族も含めた)来訪がある。秋には志戸平地区子どもみこしの来訪もある。昨年から特に志戸平地区子ども会に働きかけ子ども会との交流会が実現され継続されている。	○ 今後も継続するよう働きかける。公子ども会との交流が民館活動として認められてきているのでその活動状況を公民館の中に掲示していただいている。地域の方々が皆さん知っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員は県主催の認知症研修に母体施設職員と一緒に講師の一員として参加し、認知症ケアの啓発に努めている。利用者にプライバシーを守りながら地域の商店へ広報を渡し認知症介護について説明を行う。来訪者や、地域の高齢者は介護保険等について話題にしたがるので話しやすいように会話に気をつけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価項目は全職員で検討、認知症ケアサービスの職員の質の向上を図るため、全職員で自己評価に取り組み振り返りと気づきを大切にしている。改善はそのつど話し合い取り組んでいる。外部評価に照らし、特に理念を重んじ大切にしている。前回の改善項目についても職員で話し合い、運営推進委員の意見など参考にしながら改善に取り組んだ。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員は家族代表、地域代表、地区民生委員、市役所職員、包括支援センター職員、所長、職員で構成され2ヶ月ごとに開催している。利用者の生活状況の報告やサービス評価後の報告、改善点の取り組み状況についても報告し、さらに委員から意見を頂いている。前回の会議の懸案事項についてもその経過等報告し積み重ねている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市役所から職員に参加を頂いているが任命の委員とせず、高齢者担当職員が情報交換の場として参加頂く中で、行政的な意見や、指導もしていただき、サービスの質の向上につなげている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について外部研修を受けたものを中心にグループホーム内部学習会にて管理者、職員とも学び利用者、家族に必要時活用できるようにしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は勉強会にて関連法について学び日々のケアの中で虐待につながる事がないか、注意を払い防止に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に利用者、家族に対し重要事項説明書を提示し十分に説明している。また、疑問な点はお聞きし、その都度説明を行っている。面会時は基より家族会にても家族の意見を聞く機会を設けている。事業所としてできること、できないことについてその都度話し合うようにしている。家族会にて重度化、看取りに関して説明し同意書も頂いている。		
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、アンケート調査、家族面会時など機会を設け意見を頂き支援につなげている。頂いたご意見は検討改善し、運営推進会議や家族会に報告している。利用者本位を常に意識して、職員からもミーティング時意見を出してもらっている。		職員は自分の思いを伝えにくい利用者へは表情を観察し、1対1でゆっくり気持ちを表せる機会をたくさん持つように努めている。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームでの生活状況を家族面会時に報告している他に、ケース記録のコピーを郵送してお知らせしている。またホームでの活動の記録を家族に渡し、家族からもコメントをいただくようにしている。預かり金については3ヶ月毎に残高状況と明細の確認をして頂いている。健康状態については定期的な報告と必要時電話で報告している。		広報『共に』にて写真の報告も行っており家族にも好評である。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関内にご意見箱を設置している。電話や来訪時、カンファレンス時に管理者や職員と直接意見や苦情を出しやすい雰囲気になっている。家族から出された要望はミーティング等で話し合い改善するようにしている。運営推進会議に家族代表も出席してもらい意見を述べ、その意見を運営に反映するようにしている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングで意見、提言を出しやすい状態にしている。話しにくいと思われる場合は個別に話し合いを設けている。また、毎月1回の勉強会を設け、その中で意見を多く出してもらっている。学習会でさらに協議が必要と思われる場合は翌日にも話し合いの場を設け職員一人一人の意見を出しやすくしている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者一人一人に沿った活動ができるようなシフトになっている。夜勤者は日中からなじみの関係にある職員が対応している。1名増員あり、職員の急病や急な休みに対応できるようになっている。職員配置の中で勤務の調整が要望どおりになるように努めている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者にとってなじみの職員となるように職員の移動はしないようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立てOJT方式をとりながら担当を決めテーマごとと事前自学することにより、より研究心を高めるようにしている。内部研修、外部研修に積極的に参加している。外部研修に参加後は伝達報告を行っている。また日々その都度指導も行っている。		外部研修記録はできるだけ詳細に行い、全職員が閲覧し認識や情報を得やすいようにしている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県GH協会や花北ブロックのGH定例会に参加し交流を行っている。定例会にて施設見学や意見交換などのネットワーク作りに積極的に参加継続している。同業職員実習受け入れも行い双方の職員の質の向上や、情報交換に努めている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者、管理者は話をよく聴き、必要時アドバイス行っている。法人との職員交流や、親睦会の機会がある。ストレス軽減や気分転換のための休憩室がある。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得に向けた支援を行っている。運営者は個々の勤務状況を把握しており職員が向上心を持って働けるようにしている。ほめる声かけを行っている。健康診断が法人にてあり、健康で働けるよう努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前のホームの見学や自宅への訪問を数回行い、本人の不安なことや困っていることを聴くようにしている。在宅の方はヘルパーやケアマネジャーからも情報を聞くようにしている。面接時は本人の表情や会話から本人の気持ちを察し、受け止めるようにしている。利用者、家族が安心できるような対応に努力している。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時は時間をかけ家族の立場に立って話を聴くようにしている。家族状況も把握し、家族の不安、困っている状況等を聞くようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時本人や家族の思い状況等確認しながら、必要なサービスにつなげるようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に家族と事前に見学してもらうこともある。なじみのデスタッフやケアマネジャー、ヘルパーの訪問もあり徐々になじむようにしている。家族や知人の訪問が多数あり自宅にいたような雰囲気で団欒できるようにしている。個々の思いや意向を入所時に把握するために聴く姿勢で会話を大切にしている。		今でもデーサービス通っているような感覚の方もあり、その雰囲気のまま生活している。
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	喜怒哀楽を共に過し、人生の先輩として尊敬し、現在を受容し対応している。忘れていた日常生活活動や持っている能力を引き出している。職員は常に利用者から学ぶ姿勢を持ち対応している。特に伝統的な事、社交的な事教師経験者からは困った時などの対応を教わるようにしている。介護というよりはできないことは手伝うから一緒にやろうという気持ちで関わっている。		恥ずかしがりながら、玄関の花を生けている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族より自宅での生活ぶりを聞いたり、ホームでの暮らしを細かく話し合うことにより一緒に本人を支え合う関係を築いている。行事と一緒に参加してもらい楽しいときをすごしてもらっている。面会時は一緒にお茶を飲んで頂きゆっくり過ごしていただくようにしている。新しい事柄については家族に相談しながら行っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	定期的な面会や、県外からの家族もホームが集まる場所になり、常に家族との絆が深まるように支援している。ホームで暮らしていても家族との絆が一番であり、孤独感を感じることがないように面会時、面会後の声かけを大切にしている。盆正月には自宅への外出、外泊の支援を行っている。帰宅時の排泄状況の相談を受けアドバイスをしたりしている。		食事時の面会は食事介助などのお手伝いもして頂いている。盆踊りや花巻祭りも家族と一緒にみれるように呼びかけしている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのかかりつけ医への受診に関して、情報提供を行い継続受診できるようにしている。馴染みの床屋、美容院への外出や、ホームへの来訪など気軽に出来るように支援している。郷里訪問を行い自分の隣近所の方と会うことができるように支援している。自宅を訪問し自分が大事にしているものや花や木などを見るようにしている。手紙へ返事が出せるように支援したり電話へ出るよう支援する。		郷里訪問は毎年実施しているが、自宅の花を一輪ホームに持ち帰り眺めることにより記憶が鮮明になったり、昔の思い出話をするにつながっている。毎月の同窓会への参加継続の支援を行なっている。友人知人が気軽に面会できるように支援している。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係性を職員は一人ひとり把握しており、利用者が孤立しないよう間に入って会話を進めたり、より良いコミュニケーションが取れるように仲介を行なっている。ホームの中で役割を果たすように支援している。男性にはホームでの家長的な役割を担ってもらっている。		耳が遠い方もいるので仲介に入ったり気の合う方同士が話せるようにテーブル席を工夫したり、一人ひとりが気持ちよく過せ様に支援している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	隣接の特養に移った利用者に職員は励ましや挨拶に行っている。日光浴や散歩にてGHを訪れることもあり、再会を喜ばれる。大行事で再会することが良くあり、そのことが毎日の元気につながるようである。家族とも会う機会が多くあり現況について話し合い継続的な関わりを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の良いところ、大切にしていること、今後どうしたいかを本人に聞き票にしながら、職員は本人の意向の確認をすると共に共有している。確認が難しい方は利用者の視点に立ち、日々の行動や表情から受け止め共有している。		普段の会話の中にも本人の思いがこめられているので、その人らしい暮らしを大切にしている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族面会時、カンファレンス時など家族より生活歴や馴染みの暮らし方、価値感などを聞いている。また、本人の話からわかることから捉えるようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員は一人ひとりの一日の暮らしや生活のリズムを把握している。出来ることを把握し、利用者を全体的に把握するよう努力している。個人のケース記録や日常記録表等を参考にし職員は利用者の表情を大切にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人からのモニタリングを時間をかけて行い、要望等聞いている。カンファレンスには家族の参加あり、意見や要望を頂き、それらを反映し職員全員にて検討を行い、介護計画を作成している。センター方式にて利用者の出来ないことをの把握も行いケア計画に生かしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態に応じて、現状に即した介護計画の見直しを行っている。本人、家族と話し合いケアプランを作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	チェック表(食事、水分摂取量、排泄、バイタル)記入。個別ファイルのケース記録には日々の様子や活動の状況を記入し情報の共有を行っている。また活動記録表には本人のエピソードを記入し、後に総合的に見直し働きかけができるようにしている。		個別のケース記録や毎朝のミーティング時に検討し、記録やケアプランに生かしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望により外出や外泊の支援を行っている。本人の気持ちに沿って安心できるようにしている。通院時家族の状況に応じて送迎、付き添いを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して暮らせるよう地元駐在所、消防、民生委員、ボランティアと交流する機会を設けている。駐在さんは毎月の広報配布と安否確認。地元消防団による見回り年2回(正月、盆踊り)。花と緑の会の庭の手入れ。地元小中学校への広報の送付。専門学校生の実習受け入れ等行っている。		地元花と緑の会によりさつきの手入れ利用者との交流、地元婦人によるおやつボランティア、方言ボランティアなど交流が継続している。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入所前後の地域のケアマネジャーとの話し合いがある。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に包括支援センター職員が参加することにより情報交換、協力関係を築いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人や家族が決めており、受診の際はかかりつけ医に利用者の状態変化を伝えるなど事業所との関係を図っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入所前からのかかりつけ医として、個々に認知所の専門医を毎月受診しており家族と協力しながら日常の生活情報や記録を提供しながら継続受診につなげている。診断治療に関して必要な情報を提供している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	職員の中に看護職員がおり、利用者の健康管理や医療機関との受診の支援を行っている。他の法人医務室の看護師とも気軽に相談できる状態にある。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院への情報提供を行うと共に、家族や医療機関と連携をとり、早期退院に向けて協力し受け入れを行っている。入院中にも面会を行い、利用者への励ましや本人の思いを大切にし、退院できるように支援している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期について家族会にて話し合った。事業所として、できること、できないことを説明している。終末期については法人、特養の受け入れも可能であることを家族に説明し同意を得ている。		家族とのコミュニケーションを大切にし本人の安心できる生活を支援し、嘱託医の支援を頂いている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合でも状態応じて、事業所のできることでできないことを見極め、かかりつけ医と共に支援していきたい。ターミナルについては医師、本人、家族との相談により、医療機関、特養等へのチームとして、今後の変化に備え検討、準備している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所へ移られた場合はアセスメント、ケアプランや支援状況を手渡すと共に、情報交換を行い、なじみの職員が面会に行き、リロケーションダメージを最小限にするよう努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は理念に基づきプライバシーを守り、記録物の取り扱いにも配慮し、個人情報の漏洩防止に努めている。利用者の前で利用者の話をしない、利用者の誇りを損なわないなど徹底している。法人職員として情報取り扱い遵守の宣誓を行っている。勉強会を行い、プライバシーの確保、個人情報の保護について勉強している。		
51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に合わせた声がけ、伺いをし、意思表示できるようにしている。難聴の方には難聴の方には紙に書いて、表情等にも配慮しゆっくり時間をかけて説明している。日常生活の一つ一つについて本人の希望を聞き利用者を理解したうえで自己決定できるよう支援している。誕生日には主食の好みを聴き提供している。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の癖などもわかり、その人に合わせたペースで支援している。個々の体調を考慮し、部屋で過ごしたり、寝たり、本人の希望を聞き本人のペースで過ごしてもらっている。食事もうっくりマイペースでしっかり摂ってもらっている。		
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容は、本人の行きつけの店に行ったり、ホーム来てもらっている。声がけをしながら、その日の服装を本人が決めるように支援している。家族等にも伺い、今までのようにと考え、本人の個性が出るように自由な服装にお願いしている。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りの献立表で毎日お知らせしている。苦手な食べ物は代替え食で対応している。食事準備はできることをお願いし、片付けは利用者が混乱しないように当番制で行っている。毎月1回法人のバイキングに参加し楽しんでもらっている。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	朝のお茶、コーヒーなど好きなものが楽しめるようになっている。また、飲み物の甘さ、熱さ一人一人のあわせている。個々に嗜好品はせんべいや飴、著工レート等食べ過ぎないように管理しながら、食べたい時に提供している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	職員でよく話し合い個々の排泄パターンやサインを把握し、トイレ誘導している。失禁の多い方はパットを使用しトイレ誘導しながらトイレでの排泄の満足を支援している。間に合わずぬらした場合はさりげなく着替えを進めている。体調不良時はオムツ使用することはあるがすぐ減らす支援を行い、現在オムツ使用者はいない。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間帯については本人、家族の希望を聞き対応している。羞恥心への配慮や一人一人の希望に添えるような順番にし、ゆっくり入浴を楽しめるようにしている。心臓への負担のないように勧めている。入浴を嫌がる利用者にはタイミングを見計らい「入浴」という言葉を使わないなど工夫をしている。		一人一人の体調を踏まえ、希望にあわせ、お湯の温度も調節している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の習慣や体調に合わせた支援を行っている。夕方は一緒にいつものテレビを見たり、そばで話をしたり、穏やかに過ごせるようにしている。夜間不眠の方は日中の散歩の支援、冷え性の方は足浴バケツにて対応。入眠中は部屋の温度に気をつけ、無駄な声がけはせず、見守りや必要な声がけを行うようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人の好み趣味を聞き、気持ちが向いてくるような会話、娯楽、または自信がつかってくるような言葉がけを行っている。花の手入れ、草取り、食事作り、食器荒い、花の世話、カーテンの開け閉め、テーブル拭きなどそれぞれの役割を見つけて実践して頂いている。歌が得意の人、刺し子の得意な人、大正琴の得意な人、読書の好きな人それぞれに生きがいとなるよう支援している。		またみんなで出かけるバスハイクや買い物など気晴らし行事も行っている。挨拶や感謝の言葉を述べるのが役割りとしている方もあり機会作りの支援を行っている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の力や希望に応じ、スーパーや商店で好みの食べ物や洋服を購入する時自分で会計できるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自宅にいたときと同じように毎月、同窓会に出かけ友人との会食会に参加している方もいる。気分転換に散歩や本人の希望に沿って出かけたりしている。家族との外出支援。希望される方へのバスハイクやドライブなどストレスの発散となるような外出の支援をしている。足腰が弱い方へは車椅子対応とするなど安心して出かけられるように支援している。		ウッドデッキからよく庭に出ている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族等との遠出の支援、他の利用者へと一緒に他市町村へも出かけている。水沢への輪投げ大会。季節の風景を楽しむ、花見、花巻温泉バラ園、白鳥見物、牡丹園、ゆり園等のバスハイクやルンビニー美術館などの見物を行っている。特に花巻祭りの夜の見物は家族とも一緒に見物できるように支援している。		家族の協力により、地域の敬老行事や墓参りに外出している。孫さんが開店したお店を利用者数人で訪問するなどの支援を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からの手紙や電話はすぐに取次ぐようにしている。また本人から希望があれば電話をかけたり、手紙を出したりできるようお手伝いしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、友人、知人がいつでも気軽に立ちよっていただけるような挨拶や雰囲気作りをしている。自分の部屋や居間、好きなところで訪問者がゆっくりすごしてもらうようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての学習会を行い、身体拘束をしないように共通認識を図っている。また言葉の暴力についてもミーティング等で話しあい、理念に基づき日々のケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は鍵をかける事による弊害を十分理解しており、日中は開錠している。外に出たい方がいればさりげない声がけで、職員は必ず付き添うようにし、利用者の思いに寄り添うようなケアを心がけている。職員間の連携を密にし安全に臨機応変に対応している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を通して、利用者のプライバシーを守りながら、職員は利用者を見渡すようにしている。時に利用者の所在確認をし合うようにしている。夜間も全体を見渡せるようになっていのほか、定期的な巡回と細心の注意を払い声がけ見守りを行うなど、随時対応できるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	すべてを取り除くのではなく、利用者の活動意識を減少したりしないように工夫す危険防止を行っている。刺し子をする方へ、はさみは自己管理とし針は本数を数え、毎日渡す。管理については、職員は誰でもわかるよう記録し連携を図っている。足の爪きりができないが手の爪きりができる方へは職員は見守り本人が爪を切る方もいる。		消毒剤や薬などのように危険なものは保管場所を別にし危険防止を行っている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット、事故報告の記録に基づき防止または再発防止等の検討を行っている。勉強会を実施し事故防止、危険箇所の発見などを行っている。また、利用者のアセスメントや必要時のケース検討を行い個々の状態に合わせて安全に心がけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応について研修会を実施し、マニュアルの見直しを行ない職員間で確認しあっている。また母体施設での研修会にも参加し繰り返し学ぶようにし緊急時の対応に備えている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災、地震災害、日中、夜間想定と、年2回の防災避難訓練を行ないマニュアルの見直しを行なっている。消防署参加の避難訓練に加え母体施設職員の応援訓練を実施し、消防署員による防災教育を受けている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	カンファレンス時に家族とリスクについて話しあっている。家族も協力的でリスクへの対応は連携をもって行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	いつもの状態を良く知り、日常のバイタルチェックの実施や体調の変化の早期発見に努めている。食欲、顔色、息遣い、等の異変があれば家族、看護師、医師との連携を図り速い対応ができるようにしている。朝のミーティング時には体調の再確認を行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬はケースごとに整理し、処方箋は一つのファイルにし職員が用法、用量を把握できるようにしている。服薬時は本人に手渡し服用の確認を行なっている。服薬の変更時は状態を確認し看護師や医療機関と連携している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防に向けて水分の摂取量に留意し食事、おやつにも工夫している。食材には繊維質の多いものを食べやすい状態にして勧める。牛乳、乳製品(ヨーグルト、プリン等)を取り入れている。また水分摂取量や排泄チェック票を確認し、散歩、家事手伝い等、身体を動かす機会を作り、排泄のリズムに合わせた誘導を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	職員は食欲不振や、肺炎を予防する等、口腔ケアの重要性をよく理解し、利用者への毎食後の口腔ケアを行っている。毎食後歯磨きの声かけや見守り、介助の必要な方には義歯の洗浄や、うがいなどの支援を行っている。舌苔の清潔等も行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立のもと栄養バランスに留意しながら、一人一人にあった量にしている。個別のチェック票により、水分摂取量、排泄状況がわかるようにしている。食事摂取量は5段階にて記録し、水分は1200ccを目指している。年に2回管理栄養士に食事状態、摂取状態を見てもらっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関する研修会に参加し、感染症に対する情報を収集すると共に内部学習会を行い全職員で学習しマニュアルの作成、予防対応に努めている。利用者家族の同意を得てインフルエンザの予防接種受けている。来訪者のうがい等継続している。ノロウイルス対応としてはペーパータオルの使用を継続している。		利用者の結核検診、健康診断の実施や、職員の健康診断、予防接種の実施を行い感染の予防に努めている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒の学習会を行い、職員で話し合った上で衛生管理の再確認、新鮮な食材の使用と管理に努めている。まな板やふきん等は毎晩漂白し清潔にしている。食材は冷蔵庫に入れる日付を記入し、食材の残りは鮮度や状態を確認し冷凍したりしている。野菜などの食材は使用時流水でよく洗うようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	目印のわかりやすい看板の設置、スロープもありどのような方々にも立ち寄っていただけるようにしている。玄関内には利用者が花を生けて来訪者をむかえるようにしている。玄関内には座って靴を脱げるように椅子を配置している。玄関がカーテン越しに居間につながり、来訪者を迎える歓迎の気持ちや表情が伝えやすい。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間にはテーブルの配置や歌のテープの配置等雑音にならないよう配置して楽しんでいる。照明や換気にも留意して寒暖に備えている。食事作りの音やにおいがリビングでも生活観を感じるようになっていく。春は桜、夏はすだれ、など季節を感じるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	図書コーナーで、一人で落着いて過ごせる空間がある。ソファで利用者同士で会話したり、一人座ったりテレビを見たり思う場所で過ごしている。キッチンカウンター前に椅子を置き食事作りの食事作りの職員と1対1で話しながら一人を楽しむ方もいる。部屋で気の合った利用者同士がお話を話したりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力により本人が必要としている物、使い慣れたものを持ってきて頂き、居心地よくすごせるように支援している。亡き妻の写真、筆筒、鏡台、ラジカセ、大正琴など。暇を見ては琴を弾いている。愛用の布団にて休まれる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室やトイレ等その都度換気を行い気温や湿度の調整にも気をつけている。食事の後や一定の時間帯に換気を行っている。冷暖房は利用者の情愛を見ながら注意して調整している。温室時計を見ながら加湿したり、居室の換気を行っている。居室のトイレはこまめに掃除し悪臭のないようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	キッチン内は利用者の使いやすい高さになっている。手すりや浴室、トイレ、廊下など居住環境に適しているが利用者の状態に合わせ見直しを行い、安全確保と自立への配慮を行っている。浴槽の手すりの見直し、更衣室の手すりの設置により安全にまたぎができるようになっている。危険な場所はないか、話し合っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレには男女マークで表示したり、使用中、空きもれをめるようにしている。また、各居室も迷うような方が方には大きめの表札にしたり、自分で認識できるよう顔写真も掲示している。衣類の汚れ物を隠すことなく、プライドを保護し、出せる工夫をしている。		
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキに出て椅子に座り、日光浴を楽しんだり、花壇のお花を見たり、草取り、庭の散歩を楽しめるように支援している。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

○利用者が個人の好きなことをして、安心して暮らせるように職員は毎日のケアに取り組んでいる。

○どの部屋からも眺める事のできる花壇があり、花植え、草取り等利用者と地域住民が一緒になって行なっている。

○毎月1～2回実践しているバスハイクでは、地域の催し物に参加し生活空間の拡大を行なうと共に、季節感を感じたり、利用者間の楽しみやいたわりあいの連帯感を図ることができる。

毎年行なっている郷里訪問（自宅訪問）は利用者の気持ちを穏やかにし、記憶や自信につなげる良い機会となっている。

○